



観測塔には大切な役目がいっぱい

が高くなって帰れなくなったときのために、非常食や布団も用意してあります。でも、こんな海の真ん中に取り残されたら、心配で絶対に寝られないと思いました。
この観測塔は、昭和四十年に海岸から一キロメートル、海の深さ二十メートルのところに建てられました。観測塔では、風速、風向、波浪、波高などを二十四時間ずっと測定しています。データは海底ケーブルを使って虹ヶ浜にある平塚実験場へ自動的に送られます。台風の際にも休まず活躍する観測塔って、すごいですね。

相模湾の海の底には、約二十キロメ

それからもうひとつ、平塚実験場の西側にある相模湾海底地震観測施設海岸中継局も見せてもらいました。

陸びゅり海岸中継局



平塚実験場の中は、どんなかな？

虹ヶ浜にある平塚実験場へ行き、観測塔から送られてくるいろいろなデータを見せてもらいました。とっても細かい数字がいっぱいです。どれも、津波や高潮などによって起こる災害などを防ぐ、大切なデータです。

それからもうひとつ、平塚実験場の西側にある相模湾海底地震観測施設海岸中継局も見せてもらいました。

地震の知識



勉強になるなあ

メートルの間隔で合計六台もの地震観測装置がついたケーブルが沈めてあるそうです。その長さ、なんと百二十キロメートル。六台ある観測点のデータは、この海岸中継局に集まり、さらに茨城県つくば市の研究所へ送られます。
地震は、ほんとうに怖いのです。いきなり揺れて建物などを一瞬にして壊してしまいます。こんな恐ろしい地震に立ち向かうためには、地震のことをよく知らなければなりません。でも、地震は地下で起こって



おしゃれな海岸中継局



海底にもすごい装置が

は、毎日の観測の積み重ねでわかったことです。これからも、わたしたちが安心して住めるように、研究所のみなさんががんばってください。みんな応援しています。
それから、大ニュース。インターネットを使えば、全国で起きた地震のデータを見ることができるようですよ。すごい。わたしたちも見てみよー。

高感度地震観測網ホームページ <http://www.hinet.bosai.go.jp/>

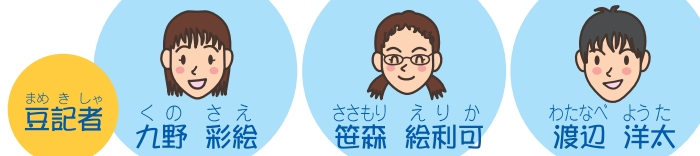


さあ、船出だ！

防災科学技術研究所平塚実験場の渡部さんに案内してもらい、海の上に見える波浪等観測塔や虹ヶ浜にある相模湾海底地震観測施設海岸中継局などを取材しました。

波浪等観測塔

海と陸から大解剖



豆記者

くの九野 彩絵

ささもり えりか 笹森 絵利可

わたなべ ようた 渡辺 洋太



船から観測塔へ飛び移るのですが、なかなかタイミングがつかめなくて渡部さんに手伝ってもらいました。観測塔の上でも、床が網の目になっていて、下の海が丸見えです。海面から十五メートルもある観測室



平塚の街が見えるぞー

平塚新港から観測艇に乗って、約十分で波浪等観測塔に到着。思ったよりも近かったので少しビックリ。でも、ここからハラハラドキドキの連続です。波が高くなって、船が観測塔と同じ高さになったときに

海恐怖の観測塔

へ行くときも、細い手すりにつかまりながら、海に面した急な階段を上って行きます。足が少し震えます。下を見ないようにしながら、円の形をした観測室にやっと到着。ここは床もちゃんとしている普通の部屋だったので、ホッとしました。少し落ち着いて部屋の中を観察すると、テレビ・冷蔵庫・電子レンジが置いてあります。それに涼しいと思ったら、エアコンもついていきます。渡部さんに聞いたら、陸上から海底ケーブルを使って電気を引いているそうです。観測塔へ点検などで来て、帰りに波



大きな大きな観測塔